

第5学年1組 図画工作科学習指導案

指導者

1. 題材名 世界に一つの自然からの思い出オブジェをつくろう

A表現（2）工作

2. 題材設定の理由

- 本学級の児童は、図画工作科の学習を楽しみにしている児童が多く、ゴールまでの見通しがもてると生き生きと意欲的に活動することができる。一方で、初めてで見通しがもてないことや新しい材料に対してどう扱ってよいか分からず不安をもち、なかなか活動が進まない児童も数人いる。また、自己肯定感の低さから自分の作品に自信がもてずに投げやりになってしまう児童もいる。

4年生の「つくって つかって 楽しんで」では、黄ボール紙を切って組み合わせることで、壁飾りをつくる活動をした。三学期の二分の一成人式では、それらの作品を手を持って思い出スピーチをするというゴールを設定することで、全員が自分の思いを膨らませて活動する姿が見られた。このような児童の実態を踏まえ本題材では、題材のゴールは、4年生を招待して、自分のオブジェを見せながら、自然教室の思い出を伝える会をするようにする。その後、作品を校内に飾り、多くの人に見てもらえるような場を設定することで自分の作品を多くの人に見てもらい、よさを認められることで自己有用感につなげたい。

1学期に行ったアンケート①の結果から普段の生活の中で、絵や立体をほとんど見ない、まったく見ないと答えた児童が42%となり、普段の生活の中で絵や立体に興味をもっていない児童が多いことが分かった。本題材を通してこれまで気にしていなかった作品や身の回りの面白さに気付けるようになってほしい。

②、③の結果から面白い形や色、材料から何かできそうだと発想できない児童が42%と多かった。普段の生活の中で、面白い形や色、材料を見つけたとき、これで何かできそうだと思う力が付くことで、日々の生活が豊かになっていくと考える。

④の結果から友達のよさを見つけられると答えた児童が73%であった。この題材を通してたくさんの友達の作品と交流してよさを見つけることで、より作品を見る視点が広がり、様々なものの見方や考え方を育てるようにしていきたい。

表. 実施アンケート結果

	A	B	C	D
①ふだんの生活の中で、絵や立体の作品を見ることがありますか。	7	4	2	6
②ふだんの生活の中で、面白い形や色、材料を見つけたとき、これで何かできそうだと思うことはありますか。	8	3	3	5
③図画工作科の授業で、材料から新しいアイデアを思いつくことはありますか	5	7	3	4
④友達の作品のよさを見つけることはできますか。	8	6	3	2

- 本題材では、自然物とアルミ線針金という線材の組み合わせから思いついたことを工夫して表す活動を通して、形や色、方法や材料を工夫する力を培うことをねらいとしている。アルミ線針金は紐とは違いそのままの形を維持することができる。更に曲げる・巻く・たばねるなどの扱いも容易である。そのため、今回はアルミ線針金を使うことで児童の表したいことがより表われると考えた。児童が表したいことがより出てくるように、土台づくりの際に2通りの方法で丈夫な土台をつくるようにする。

一方は新聞紙の塊をビニル袋に詰めて、その上から形に針金を巻き、新聞紙の塊とビニル袋を抜き出すと、線が包んだ形（空間のある形）ができる。その形からおもしろさを味わいながら表したいことを見付けていく。もう一方は、自然物（主に流木）から発想を広げアルミ線針金と組み合わせるようになる。

本題材では、自然物にアルミ線針金を組み合わせることで、立たないと思っていた流木を立たせることができたり、自然物と自然物、自然物とアルミ線を組み合わせることで、今まで感じなかったおもしろさに気付いたり、児童の見方や感じ方が広がることのできる価値のある題材だと考えた。また、自然教室の思い出として自分たちで拾ってきた自然物を使うことで、創作意欲を高めることができる。さらに、アルミ線針金については、初めて扱う材料なので、安全な扱い方を指導し、色々な形を組み合わせたい世界を表し、6年生における題材「布と枝のコンサート」などの学習につなげていきたい。

3. 研究の着眼点

【視点1】題材設定や展開の仕方を工夫する視点から

① 題材設定の工夫について

題材を通して児童が意欲をもち続けていくために、4年生に自然教室の思い出を共有する会を設定する。その際自分の作品を見せながら自然教室の思い出を伝えるようにする。その後、作品を校内に飾り、「より楽しく明るい学校にしよう」という、相手意識をもって活動できるような場を設定する。

さらに材料には、自然教室で見つけた石・流木・貝殻等と組み合わせることで、児童は、自分の思いの入った「世界に一つのオブジェをつくろう」という気持ちを高めるようにしていきたい。

② 題材との出会わせ方や展開の工夫について

学習に入る前の自然教室の時に、たくさんの思い出をつくと共に、思い出の品を持ち帰って世界に一つのオブジェをつくろうと呼びかける。このことで児童は人とは違う自然物（色・形）に着目して集めることができるようにしておく。

「であう」段階では、初めて出会うアルミ線針金の安全指導とおもしろさを味わわせるために、ねじる、結ぶ、巻く、たばねる、立たせるなどの活動を十分に行う。児童と一緒に様々な針金の扱い方を確認して言葉のパレットをつくっていく。また、安全に用具や材料を使うことができるように、注意事項をかいたカードを置き、いつでも見て確認できるようにする。

「見つける・あらかわす」段階では、土台をつくる活動を行う。土台には2つの作り方を説明して自分の表したい思いが表れるようにする。①ビニル袋に新聞紙を詰め、アルミ線針金を巻いたり交差させたりした後、中の新聞紙を抜く。②あつめた自然物（主に流木）にアルミを組み合わせる土台にする。

土台が出来た後に、更にアルミ線針金や自然物を組み合わせることで、より自分の表したいものが表していけるようにする。児童は自然物の種類や数を選び、自分たちなりに美しさを追求して創作活動をしていくようにしたい。

いつでも見て参考にできる作品を置く場所（アイデアの泉）をつくり、つくるときのヒントになるようにする。

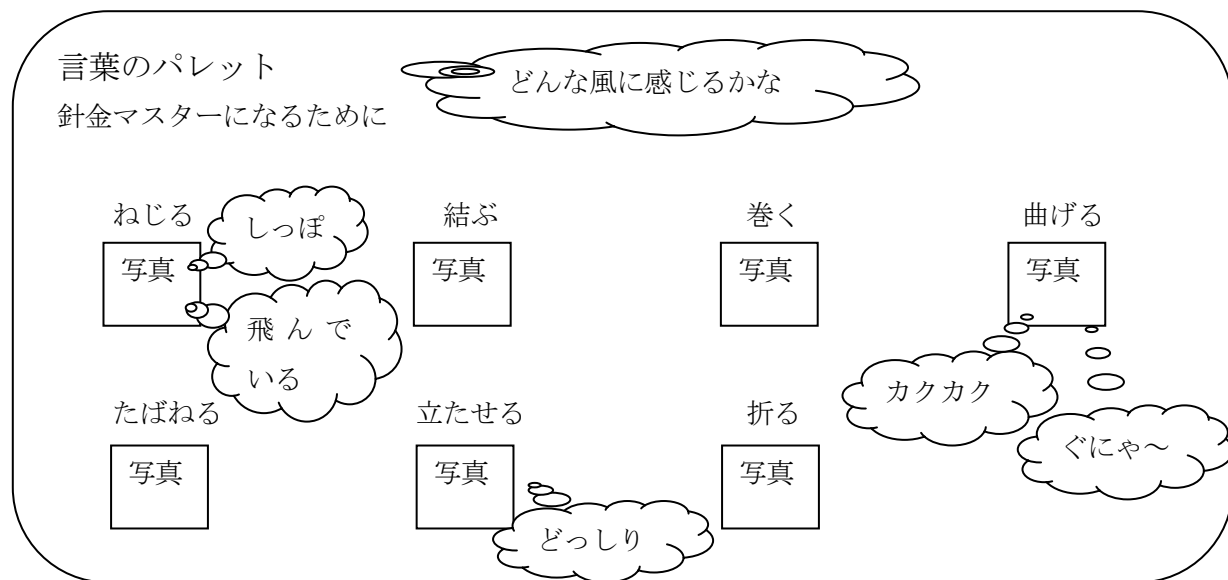
「あじわう」段階では、アルミ線針金と自然物の組み合わせのおもしろさから、自分や友達の表し方の違いに気づき、よさを実感できるようにする。また、4年生に自然教室の思い出を共有する会を設定する。高学年として自分の作品を見せる喜びと、その後校内に展示することで多くの人に自分

の作品を見てもらう喜びを感じることで自己有用感がもてるようにしていきたい。

【視点2】言語活動の場や方法を工夫する視点から

① 感じたことを共有する言語活動について

「である」段階では、アルミ線針金を自由に触らせることにより、子ども達から出てきたアルミの特徴を教師がマッピングにまとめ、掲示する。「ぐるぐるとんでいるみたい」、「落ちていく感じ」のように子どもから出てきたイメージも掲示物に書き加えていくことで作品づくりの手立てになるようにする。その際、写真を一緒に掲示することで、針金を増やしたり、立たせたりする時の参考になるようにする。



② 対話から生まれる言語活動について

アルミ線針金の土台をつくる活動の際に、新聞紙の塊や包んだ形の組み合わせを楽しんだり、流木にアルミ線針金を巻くとどんな形になるかを想像したりできる環境をつくる。アルミ線針金を新たに付け加える活動では、第1時で初めてアルミ線針金に触れて色々な形をつくった針金を友達と共有できるようにして、使いたいときには「これつかっていい？」と友達と自由に対話できる環境を意図的につくる。毎回の「ふりかえりシート」の振り返りで自分の作品の見通しをもち、次時にどのようにつくっていくのかをイメージできるようにする。さらに、まとめとしてつくる「がんばったカード」(A4・新聞形式)をかくことで、互いの表し方の違いやよさや工夫を見付けて、言葉で伝え合うようにする。

4. 特別な教育的支援を要する児童・生徒に対する指導上の工夫・手立て

別紙参照 ※別紙については、協議会后、回収します。

5. 目標

造形への 関心・意欲・態度	○ 針金からできる形の面白さに関心を持ち、楽しんで表現しようとしている。
発想や構想の能力	○ 針金と針金、針金と自然物の組み合わせを試しながら、よさや美しさを考え表したいイメージを広げることができる。
創造的な技能	○ 自分の表したい感じがより表れるように、材料や用具の特徴を生かして効

	果的に表すことができる。
鑑賞の能力	○ 線でできる形の面白さや材料のよさをもとに、自分や友達の表し方の違いに気付き、よさや工夫を見付け、伝え合うことができる。

6. 指導計画と評価計画（総時数6時間）

	主な学習活動・内容	指導・支援上の留意点 ◎言語活動	評価規準および評価方法
	○ 自然教室で自然物（流木・貝殻・シーガラス・石など）を見つける。	○ 安全に気を付けて、作品に使えそうな大きさ・形・色の自然物を集めることができるように声かけをする。 ○ 集めた自然物を洗ってしっかりと干すことでかざりに使えるようにしておく。	
であう	1 アルミ線針金を自由に触り、特徴を言葉のパレットにまとめる。 ② ・ アルミ線の太さによって固さが異なること、曲げることで形が変わることを実際に触って確かめる。 ・ ペンチ、アルミ線針金の安全な使い方を知る。	○ 安全に用具を使うことができるように用具の使用DVDを見せながら、指導する。『「用具の指導」③ペンチ・はりがねの使い方』 ○ 児童が見つけたアルミ線針金の曲げ方やつなげ方を出し合い、マッピングにまとめるようにする。 ○ たくさん針金を曲げたり切ったりすることで、ペンチを安全に使うことができるようにし、切った短い針金は後の材料として使うことを知らせる。	【関】針金からできる形の面白さに関心を持ち、楽しんで表現しようとしている。 (行動観察等)
みつける・あらかわす	2 オブジェの土台をつくる。 ②	<u>新聞紙を使う場合</u> ○ 新聞紙は取り出しやすいように野球ボールの大きさに丸めて、つめるようにさせる。 ○ 新聞紙を抜くときは、一気に抜くのではなく、少しずつ抜くことで、アルミの土台が大きく崩れないようにする。 ○ アルミ線針金は、組み合わせながら、しっかりと交差するよう、縦軸と横軸を意識して巻くようにする。 <u>流木を土台に使う場合</u> ○ いろいろな方向から巻きつけた	【発】針金と針金、針金と自然物の組み合わせを試しながら、よさや美しさを考え、表したいイメージを広げようとしている。 (行動観察等)

	<p>3 土台に自然物とアルミ線針金を組み合わせて世界に一つのオブジェをつくる</p> <p style="text-align: right;">①</p> <p style="text-align: center;">＜本時＞</p>	<p>り、いくつかの流木を組み合わせた たり出来ることを伝える。</p> <p>◎ <u>友達とできた形を色々な方向から見ることで、色々な見方や感じ方があることに気付く。</u></p> <p>○ 自分の表したい感じが表われるように新たな針金を使ったり、自然物を組み合わせたりするようにする。</p>	<p>【創】自分の表したい感じがより表れるように、材料や用具の特徴を生かして効果的に表そうとしている。</p> <p style="text-align: center;">（作品分析） （行動観察）</p>
あ じ わ う	<p>4 友達の作品を見る中で、表し方の違いに気付く。</p> <p style="text-align: right;">①</p>	<p>◎ <u>できた作品を元に、新しく気付いた色や形や材料に関することや表し方について、よさに共感できるような場を設定する。</u></p>	<p>【鑑】線でできる形の面白さや材料のよさをもとに、自分や友達の表し方の違いに気づき、よさや工夫を見付け、伝え合おうとしている。</p> <p style="text-align: center;">（行動観察等）</p>

7. 本時の学習 平成29年10月6日（金） 第5校時 図工室

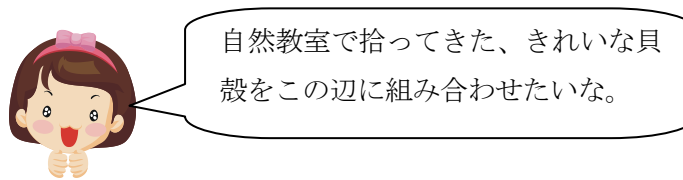
(1) 主眼



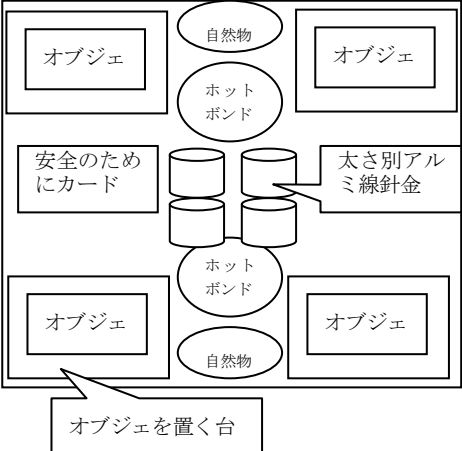
土台となる作品に新たに針金や自然物を加える活動を通して、自分の表したい感じがより表われるように、材料や用具をの特徴を生かして効果的に表すことができる。

(2) 準備

- ① 教師 アルミ線針金（太さ 2.9mm・2.0mm・1.0mm）
ホットボンド（各班1個） ラジオペンチ 掲示物 安全のためにカード
- ② 児童 自分の集めた自然物（流木・貝殻・シーガラス・石等）オブジェを置く台（箱）

(3) 展開

	主な学習活動・内容	○ 指導・支援上の留意点【観点】評価規準（評価方法）
で あ う	<p>1. 前時学習を想起し、本時のめあてを確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて 土台にアルミ線針金や自然物をつけて、世界に一つのオブジェを仕上げよう。</p> </div>	<p>○ 前時までには土台となる作品をつくっておく。</p> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の活動の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ホットボンドは事前に使い方を学習しているので、掲

	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホットボンドの使い方を確認する。 	<p>示物を使って再度使い方を確認する。</p>
<p>み つ け る ・ あ ら わ す</p>	<p>2. 土台にアルミ線や自然物をどこに置くか決める。</p> <p>スペシャルタワーのてっぺんに光る石をつけて目立たせよう。</p>  <p>3. アルミ線針金と自然物を組み合わせる。</p> <p>流木をどうやってくっつけると、いい感じになるかな。</p> 	<p>◎ <u>4～5人ほどのグループで学習することで、互いの作品に触れて刺激をうけ、新しい工夫をする意欲につながるようにする。</u></p> <p>【創】自分の表したい感じがより表れるように、材料や用具の特徴を生かして効果的に表そうとしている。</p> <p>◎ <u>枝の差し方や貝殻の付け方などを友達と交流しながら決めるようにする。</u></p> <p>○ 机上の「安全のためにカード」や掲示物を確認することで、安全にアルミ針金やペンチ、ホットボンドを使うことができるようにする。</p> <p>予想されるつまずきに対する具体的な支援</p>
	<p>《設定した場の図》 図工室机3～4人</p>  <p>※ 教室前方に参考作品を見れるコーナー（アイデアの泉）と、みんなが使ってよい自然物コーナーをつくる。</p>	<p>◆ 発想や構想でつまずき活動が進まない子どもに対する支援</p> <p>① 活動が止まってしまう児童には、「何に見える」と見立てから作品づくりをしてもよいように伝える。</p> <p>② 発想や構想でつまずいている児童は、友達の商品やアイデアの泉に置いてある作品を自由に見て参考にするようにさせる。</p> <p>◆ 技能的な面でつまずいている子どもに対する支援</p> <p>① 接着が上手くいかない児童には、教師がホットボンドの使い方を具体的にやって見せる。</p> <p>② 手元のカードを見ることで、材料や用具を的確に選び、安全に扱えるようにする。</p> <p>③ 針金の扱いに戸惑っている児童には、言葉のパレットを見て、様々な針金の扱い方を確認し、参考にさせるようにする。</p>
<p>あ じ わ う</p>	<p>4. 学習の振り返りをして、次回への見通しをもつ。</p>	<p>◎ <u>今日の活動を振り返って、作品の工夫したところを紹介し合うとともに、互いの作品の表し方の違いやよさや工夫を見付けて、言葉で伝え合うようにする。</u></p>

今日の学習で目指す「熱中する子どもの姿」

自分の作品と向き合い(自分を見つめる)、針金と自然のものの組み合わせから発想を広げている(形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえる)姿。